

	課題分析	授業改善策
1年	- 国語では、助詞や長音、拗音、促音などを正しく使って文を書くことや文章を読むこと、音読をすることが不十分で、基礎的・基本的な学習の定着に個人差がある。 - 算数では、問題場면을想像し、意味を理解して立式することが難しい。 - 最後まで話を聞き、大切なことを正確に聞き取ることに課題のある児童がいる。	- 日記やノート指導で、正しい言葉を使って文を書くことができるようにする。 - 数量感覚がまだ身に付いていないので、具体物を用いたり、ICT機器を活用したりして、問題を正確に把握できるようにする。 - 自分の考えを発表したり、友達と交流したりする場を設定し、学習したことを活用する力を身に付けさせる。
2年	- 平仮名、片仮名、新出漢字の定着が不十分であり、助詞や拗音、促音、撥音、長音などを正しく文章に用いることができない児童がおり、自分の考えや出来事、思ったことや感じたことなどを文章で表現することに苦手意識をもっている。 - 基礎的、基本的な学習内容の定着に個人差がある。特に算数では、2割程度の児童は、既習の学習内容の定着が不十分であるため、新しい課題に対しても自分の考えをもつことが難しい。	- 国語では、書くことだけに重きを置かず、読書の時間を十分に確保し、様々な文章に触れさせる。家庭と連携し、繰り返し復習することで、基礎的・基本的な読み書きや新出漢字の定着を図る。 - 算数ではTTによる授業を行い、T2の教員は理解が難しい児童の支援を行う。また、児童同士が自分の考えを伝え合ったり、助言をし合ったりする活動を設定し、数学的な見方や考え方を広げられるようにするとともに、自分の考えを、根拠をもって表現する力を身に付けさせる。
3年	- 算数の授業に意欲的な児童が多いが、基礎的、基本的な内容の定着に個人差がある。数の構成、分解の理解が難しく、計算においても、1桁の繰り上がりのあるたし算や、2桁から引く繰り下がりひき算がすぐに答えられず練習が必要である。 - 問題文を正しく読み取ったり、相手の話を大事なことを落とさずに聞いたりすることが苦手な児童が多く、問われたことに適切に答えられないことがある。 - 様々な体験学習を楽しんで参加しているが、さらに疑問をもって解決しようとするなどの主体的な活動につながりにくい。	- 習熟度別学習を効果的に行いながら、授業の始めに簡単な計算の時間を取ったり、家庭学習を活用したりして基礎的・基本的な学習の定着の必要性を児童や保護者に伝えていく。 - 各教科において、文章を丁寧に読むことや、書かれていること、話の内容をイメージしながら理解を進めていくように繰り返し取り組んでいく。音読や読み聞かせを積極的に取り入れる。 - 振り返りを大切にし、視点を絞って振り返る習慣を付けていく。その上で個々の思いを自由に表現できる雰囲気をつくる。係活動などで企画運営を児童に任せ、主体的な活動の楽しさを積み重ねる。
4年	- 基礎的・基本的な学習の定着には個人差がある。特に、漢字の習得場面で定着に差が見られる。 - 話す、書くなどの表現については、徐々に力を付けてきているが、受け答えが単語や短文になってしまい、要点をまとめて話すことが苦手な児童もいる。 - 算数の学習内容の理解はおおむね満足な児童が多いものの、既習事項を用いて解決する思考力・判断力を問う問題に対して苦手な児童が目立つ。 - どの教科でも、自分の考えを表現することが苦手な児童がいる。	- 辞書を使い、漢字や言葉に興味をもち語彙を豊かにしていく。普段から文章の中で既習漢字を使わせるようにする。漢字を覚えることが困難な児童も確実に読むことができるようにする。 - 話す経験については、日直のスピーチなどでめあてや振り返りをする機会を設け、経験を重ねる。 - 算数では、自己解決の場面で既習事項を活用して考えられるように板書、教室掲示、電子黒板等で提示する。考えを伝え合ったり教え合ったりする活動を十分に行い、考えや理解を深められるようにする。 - 教師が具体例を示したり、他の児童の考えの良さを紹介したりして、表現する際の参考にできるようにする。
5年	- 基礎的な学力の定着には個人差がある。特に算数の学習では、下学年の内容の復習が必要な児童がいる。 - 自分の考えを相手に伝えることが苦手な児童がいる。根拠をもって説明したり、筋道を立てて考えたりすることに課題が見られる。 - 自分の考えを表現すること（話すこと）に自信がもてない児童がいる。 - どの教科でも、友達の考えを聞いて、それに対して自分の考えを述べるのが苦手な児童がいる。	- 家庭学習で下学年の内容を扱ったり、授業の初めに復習する時間を設けたりして、基礎的な学力の定着を図る。 - 話型を示したり、自分の考えを表現するときはその根拠も併せて説明したりすることを習慣付けさせる。 - 少人数（ペア、トリオ、グループ）での意見交流の場を多く設定し、自分の考えを伝えることに自信をもてるようにさせる。 - 例を取り上げ、全体でどのように反応すれば良いかを検討したり、上手な児童のやり取りを紹介したりして、相手の考えに適切に反応できる力を付けさせていく。
6年	- どの教科でも、既習事項を関連付けて考えを広げたり深めたりすることが苦手な児童がいる。特に算数では、自力で課題解決することが苦手である。 - 文章を正しく読み取れなかったり、行間を読んだりすることに課題が見られる。 - 文章を書くときに、根拠を明確にしたり、考えを詳しく正確に書いたりすることが苦手な児童がいる。 - 基礎的な学力定着に関しては、個人差が大きい。	- 発言する場面や文章を書く場面を意図的に多く設定する。友達と考えを交流したり、発表させたりする場面を増やす。 - 国語の説明文や物語文の学習を中心に、正しい文章の読み取り方を全体で確認するとともに、音読の家庭学習を継続して行う。 - 考える視点を具体的に提示したり、考える手だてとなる既習事項を提示したりする（板書、掲示、大型モニターの活用）。 - 児童の実態に応じて、個々に考える視点や振り返りの観点を示す。また、家庭と学力についての課題を共有し、個別の学習計画を立てていく。
専科	【音楽】歌唱および器楽は技能の習得に差があるため、一定水準までの演奏に達するまで時間がかかり、個人の差が大きい。 【図工】材料や用具の扱いが多様になるにつれて、自分のつくりたいイメージに対して材料の取り入れ方や道具の扱いなどが苦手な児童がいる。	【音楽】技能の習得だけに偏らないよう配慮しつつ、練習時間の確保やペアでの練習など、練習の仕方を児童の実態に合わせていく。 【図工】ICT機器を使って動画を視聴し、視覚的に材料や用具の特徴の理解を深める。その後、題材に合った練習時間を十分に確保し、本番で自信をもって取り組むことができるように指導する。